

小体研

2024年(令和6年)

9月11日(水)

◇第2号◇

Physical Education Study Group of Yaeyama 八重山地区小学校体育研究会広報誌

令和6年度 八重山地区小学校体育研究会 体育領域公開授業

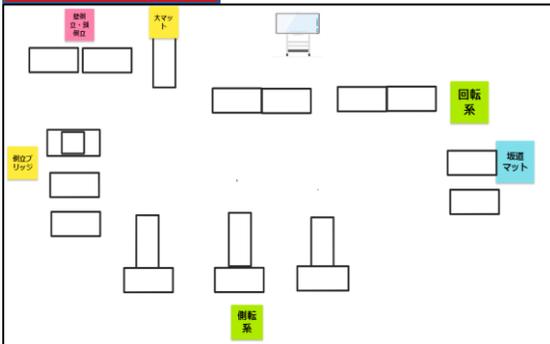
今号では、平真小学校半嶺由和子教諭による、体育領域公開授業『マット運動』の様子を紹介します。本研究会では、この授業を作り上げるにあたり、研究テーマ策定についての話し合いや、指導案検討会を重ねてきました。由和子先生の『自己調整力』を念頭に置いた体育の授業づくりは、あらゆる体育の単元に通じる実践でした。令和7年度には学体研八重山大会を控えています。八重山地区の先生方に還元できるように、体育研究を盛り上げ、授業実践の共有をしていきたいと思っております。

研究テーマ:豊かなスポーツライフを育成する自己調整力の育成～児童の変容の見取り方の工夫を通して～

研究仮説:ルーブリックと振り返りシートを活用し、指導と評価の一体化を図ることで、児童が学び方について主体的に自己選択、自己決定を繰り返し、課題解決に向けた自己調整力が育成できよう。

授業者:平真小学校 4年2組担任 半嶺 由和子
単元名:「マット運動」

①場の設定



個別最適な学び

☆本時の活動を確認したら、自分の課題に合わせた場を選択し、練習に取り組んでいました。

掲示物も充実

②子供たちの姿



ICT機器を活用した話し合い活動の充実

☆1人1台端末で、技の見本動画やポイントを共有することで、事前に知識を得たり、試技を撮影して見本動画と比較したりすることができます。授業の中でも、ICT機器を用いた話し合いの場面が多々見られました。



練習の場を自己選択①

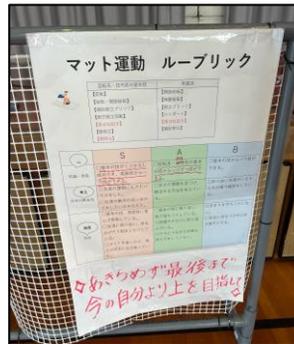
☆側方倒立回転の練習をしている児童の様子です。テープで着手や目線の印を自分たちで作っています。



練習の場を自己選択②

☆所定の位置から、練習方法に合わせてマットを移動させています。考えて自ら動いています。

③指導の工夫



ルーブリックの活用

☆単元を通してルーブリックを活用し児童の変容を見取っていました。児童にはエクセルシートで振り返りを入力をさせ、次時に向けて取り組みたいことを意識させ、学びを自覚させていました。また、毎時間の自己評価を観点別に点数化し、個人の成長を可視化することで、指導と評価の一体化を図りながら授業改善を行うことができます。



教師のファンリテート

☆児童が自己選択・自己決定をして技を練習していく中で、教師の適切な声掛けがありました。一度全体で確認をしたり、巡視しながら、各練習場所で発問・助言をしたりしていました。教師の発問・助言を基に、再度練習に取り組むことで、より充実した学習に繋がります。

④授業展開

	主な学習活動	○指導
導入	準備運動 1 基礎感覚運動	○めあて1に必要な類似運動に取り組ませる。 ○前時の学習の振り返りをする。
	2 活動①(10分) めあて1: 技の完成度をあげよう。 【チャレンジタイム】 ◇めあて1の解決に向けて取り組む。 ・自分に合った場を選択する。 ・きりりタイムを適宜設定する。	○同系統の技でグループを組み、仲間同士で取り組ませる。 ○練習の仕方の例を参考にしたり、タブレットで自分の動きを確認したりさせる。
展開	3 活動②(15分) めあて2: 組み合わせ技に挑戦しよう。 【パワーアップタイム】 ◇めあて2の解決に向けて取り組む。 ・場は各グループに2枚ずつ試技用のマットを割り当てる。練習ゾーンも用意する。 ・自分にあった技を練習する。 ・きりりタイムを適時設定する。	○同じ場にいる仲間と、課題を意識しながら組み合わせ技の完成度や構成を確認し、よいところや気付いたことを交流させる。 ○場合にに応じて練習ゾーンで、課題解決に取り組ませる。 ○共有したことを基に、グループで練習をさせる。
	4 振り返り(6分) ・振り返りをタブレットで行う。	○発見したこと、アドバイスを受けたことなどを想起させ、次のめあてにつながるような振り返りにさせる。
まとめ	5 まとめ(3分) ・学習のまとめと次時の見通しを持つ。	○児童の振り返りや発表、活動の様子や、見本児童の動画を基にポイントを共有する。

⑤授業者より

	S	A	B
技	○基本の技がくりかえし成功できず、基礎練習が一つでもできない。	○基本系-技の体系的な基本動作が身についた。	○基本の技が一つ技ができる。
考え	○友達の問題にもアドバイスをした。	○自分の課題を見つけ、練習方法を考えたい。	○今の良い友達がいるからこの場で練習をしたい。
観察	○基本の技、基礎技に集中して練習している。	○友達に声かけし、声をかけた回数が増えている。	○きりりをするように練習している。
感想	○タブレットを使った練習が安全にできている。		

自分とお手本の動画をくらべてちがいをを見つけよう

前転

後転

開脚やく

後転

半跪由緒子
7:06 6月19日

後転では、むげより先に足の裏をつけるようにいしきるといいねや

今回の授業は、自分の課題を見つけ、課題を解決するために自ら学習の場や練習方法を選択したり、学習の成果を振り返ったりしながら学習を進める自己調整力を身に付けることをねらいとしました。

そこで、今回はループリックの活用、振り返りシートを活用した情報の収集・分析、ICT機器を活用した話し合い活動の充実、家庭学習との往還に注力し、授業づくりを行いました。

ICTの活用では、一人一台端末を使い、家庭学習と授業を連動させることで学習内容の理解を深める(自分の課題の把握と解決の方法を考える)のに大いに役立ちました。また、ふりかえりシートでは、グラフを使って児童の振り返り(3観点)を視覚化することで、児童へのアドバイスを焦点化することができました。

学び合いの時間では、ICT機器を活用したことで、積極的に意見を交換し合い、協力して課題に取り組む姿が見られました。特に、ループリックを使って自己評価を行う際には、自分の強みと改善点を真剣に考える姿勢が見られました。そして家庭学習で気づいた個人の課題と解決方法などをクラスで共有することで、他の子どもたちも刺激を受けていました。

子ども達の学習を評価すると、自己の課題を見つけながら、課題解決に向かう姿が多くみられました。このことから、自己調整力を身に付けるための手立てとしては、効果的だったと感じています。

今後の課題として、児童の体育特有の表現力を高めるために不可欠な知識を習得・共有する時間の確保、フィードバックの内容やそのタイミング等あげられました。

最後に、この授業を通じて多くのことを学ぶ機会を与えてくださった小体研の先生方、本校の先生方に心から感謝いたします。先生方のご指導とサポートのおかげで、子どもたちに自己調整力を身に付けることができました。これからも学んだことを活かして、さらに成長していきたいと思えます。

授業研究会





授業研究会では、FigJamの機能を用いて、参観者が感じたことや、成果・課題などを共同編集で記録しました。本研究会でも、初めてこの機能を使って授業研究会を行いました。参観された先生方一人ひとりの考えを一覧で見ることができ、話し合いがスムーズだったと感じています。授業研究会で話し合ったことを、また次年度へと繋げていきたいと思えます。参観に来てくださった先生方、ありがとうございました。

**「体育学習が未来を創る！今、八重山小体研が熱い！
がちりスクラム！やいま体育！」**



八重山地区
小学校体育研究会
Physical Education Study Group of Yaeyama



八重山小体研